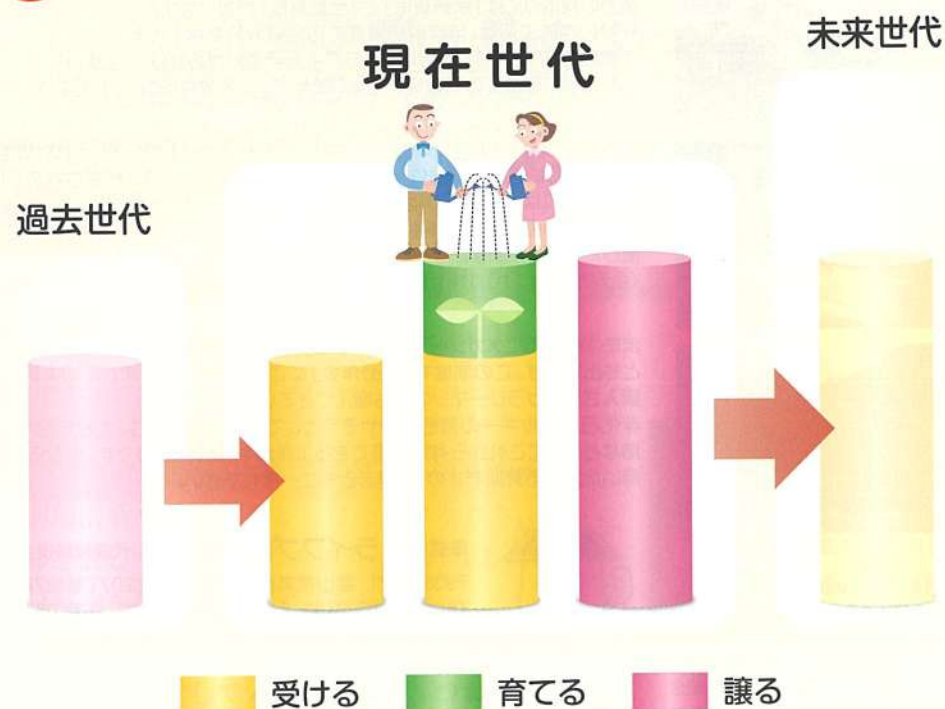


図5

善を実現する三つの段階



私たちは、過去世代から「善」を**受けて**、それを**育て**、未来世代へ**譲る**という役割があります

連の流れに例えられます。

図5にあるように、「受ける」「育てる」「譲る」という流れの中で継承されてきたものは、生命のほかに精神的、文化的な資産をも含んだ「いのち」です。これが見失われた時、人間は過去を切り捨て、未来を見捨て、現在という刹那のなかに切り離され、他者とのつながりが希薄になるだけでなく、自分自身の存在意義をおぼやかされることになります。

過去なんて関係ない、未来なんてどうでもいい、今がよければいいという生き方と、「いのち」を受け、育て、譲るという人類の大きな営みに参画する生き方とは、その人の「いのち」の味わいが大きく異なってくるのです。

私たちは日常生活のなかで、自分が「いのち」の連続のなかに生きているという自覚を見失いやすいものです。また幼児期、青少年期、壮年期、老年期とはその連続のなかで担う役割も変化します。「いのち」の連続のなかで自分は何をすべきかを自覚し、安心と生きがいのある人生を歩む。モラロジーが提唱するのは、そのための倫理道德なのです。

今月の範囲

第一部 基礎編

第一章 倫理道德のめざすもの 三、倫理道德の本質と善の実現

モラロジー研究所の概論講座で使用するテキストが、平成27年4月より改訂『テキスト モラロジー概論』となります。第一章では、「よきもの」としての「善」を説明しています。今月は、「善を実現する三つの段階」について、図を用いて考えてみましょう。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

善を実現する三つの段階

——「いのち」の連続の中に生きる

廣池千九郎研究室室長 みやしたかずひろ 宮下和大

私たちの生活を根底から支えているものはなんでしょうか。さまざまなものが浮かび上がってくるのかと思います。住居や食料、仕事、愛する家族や友人との心あたたまる交流など、どれも私たちの生活に欠かすことのできない「よきもの（善）」です。

モラロジーでは、私たちそれぞれが可能性を発揮しつつ、他者と共生することを「善」と考えます。人類は長い歴史を通じて「善」の実現に取り組んできましたが、その実現への思いが私たちの生活を根底から支えているのです。

また、「善」とは自他の幸せの実現とそれを支える社会の維持発展とにつながるすべてを総称したものであります。モラロジーでは「善」の実現に努力する心づかいと行いを倫理道德の本質として、とりわけ私たちの根本的な基盤である「いのち」とその存続を、「善」の最大価値として重要視しています。

人類社会の歴史は、生命の存続と発展を実現するために、各世代が先人の努力を途切れなく受け継ぎ、新たな創造を付け加え、次の世代へと譲り渡してきた一